**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１０回　（２０１４年１２月１６日）**

**・第１０回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(10)~(11)頁**

・📖 p(10)　**霊性の師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴**

・📖（p(10)つづきを読む）**師はひたすら甘美な存在であり、訪問者に惜しげもなくふりまかれるらかな歓びの権化そのものであった。**

シュリー・ラーマクリシュナは、**pure joy（純粋な喜び）を配っています**。**distribution**は、日本語で？

（参加者）**与える**。

シュリー・ラーマクリシュナは、信者のために与えていました。free distribution。

しかしもうちょっと深く考えると、**当時の信者のためだけでなく、将来の信者のため、将来のみなさんのためにも与えています**。**『ラーマクリシュナの福音』はみなさんのため、将来のみなさんのため**。本当にそうです。たとえば我々はそのとき生きていなかったですが、『ラーマクリシュナの福音』を読むと、同じフィーリング、同じ雰囲気、同じインパクトが出ます。

古典文学classic literature、古典音楽classic musicも同じことではないですか？　クラシックは、昔から受け継がれていますね。それがクラシックの特徴です。

**シュリー・ラーマクリシュナの教えも、クラシックです。religious classic**。宗教の本はたくさん出版されていますが、残って読み継がれるものは本当に少ない。買っても、いずれ忘れます。**クラシックはずっと読まれ続ける。『バガヴァッド・ギーター』『ウパニシャッド』『聖書』『お釈迦様の言葉』『コーラン』『ラーマクリシュナの福音』、みな、スピリチュアルクラシック**です。

・📖（読むp(10)）　**シュリー・ラーマクリシュナのメッセージの特徴**

**特定の時代と場所を背景に語られた師のメッセージは、しかし時空を超えて、不滅である。**

（解説）

前節では、師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴について話しました。

この節は、シュリー・ラーマクリシュナの教えの特徴についてです。それは、

1. 世の中のメッセージには、励ましのもの、国に対する愛のものなどいろいろありますが、**シュリー・ラーマクリシュナのメッセージは霊的なものだけ**でした。
2. ある見方では、１９世紀にドッキネッショルで語られた、時間と空間に限定されたメッセージです。しかし、（先ほどの“クラシック”のように）**その教えは永遠**です。

どうして永遠といえるのか？

（参加者）普遍的な教えだから？

「永遠」がキー・ポイントです。普遍的と永遠は、別のポイントではないですか？ なぜ永遠か？　**それは、「絶対の真理」についてのメッセージ**だからです。**「絶対の真理」は変わりません**。**「絶対の真理」「絶対のあらわれ」は、唯一無二**です。ほかにはない。

scientific law科学の法則──たとえばニュートンの法則、アインシタインの法則──は真理とは言いません。（真理は、哲学と宗教の関係で使われます。）真理とは、以下の４つと真理を悟る方法です。すなわち

**＜真理のテーマ４つ＞**

1. **神様の本性**
2. **宇宙の本性**
3. **生き物の本性、人間の本性**
4. **それぞれの関係**

**＜真理のテーマには真理を悟る方法もふくまれる＞**

1. **真理をどのように悟るか**
2. **悟りの障害は何か？　それをどのように解決するか？**
3. **真理を悟った結果は何か？**

悟りの方法を具体的に言うと、心のコントロールや無執着etc.です。

心とその問題は、五千年前と今、何か変化したでしょうか？　いいえ。生活のしかたや環境は変わっても、人間の心とその問題はまったく変わっていない。五千年前も今も、人間の心には、怒り、自惚れ、肉欲、嫉妬、幻惑などたくさんの問題がある。心の性格 natureは同じ。同じ問題で苦しみ悲しみ続けています。三千年前の叙事詩を読めばよく分かる。そのときにも今と同じ、うぬぼれ、怒り、肉欲、執着、暴力がいっぱいありました。

人が求める目的によって、「真理を知りたい」というアプローチと、ストレスから逃れたいから「永遠の安定した幸せが欲しい」というアプローチがある。そのどちらでもいい。（「真理を知ったら永遠の至福を得ます」し、「安定した幸せを得たいなら真理まで行かなければならない」。アプローチは異なるが最終的には同じ「真理」にいく。）

聖典の内容は、それです。真理と真理を悟る方法です。その真理は変わらない。その真理を悟る方法も変わらない。だから聖典は永遠です。

我々は幸せを得るために新しい方法を発見しましたか？　幸せを得るための“幸せのマシン”知っていますか？（笑い）あったら、作ったら、大金持ちになれます。（笑い）しかしそのマシンはできない。別の方法もなかった。だったら、神様が必要、聖典が必要、聖典の勉強が必要なのです。それにそれがなかったら、誰も神様のことを考えないでしょう？　神様もギーターもラーマクリシュナも、全く無駄みたいになります。

**シュリー・ラーマクリシュナの話は、真理についての話。永遠なものについての話**。どうしたら安定した幸せを得られるか、どうしたら束縛から解放されるか、どのように無執着になるか。だから**『ラーマクリシュナの福音』は永遠**です。ある場所、あるときのものだけではない。**その教えはずっと永遠で、将来もそれを使います。同じ意味で、『ウパニシャッド』『バガヴァッド・ギーター』も永遠です。**

・📖（読むp(10)）　**シュリー・ラーマクリシュナのメッセージの特徴**

特定の時代と場所を背景に語られた師のメッセージは、しかし時空を超えて、不滅である。**空のごとく広大で、大海のごとく深い、**信仰と合理性をあわせ持っている。

（解説）

「**広大**」「**深い**」──なぜシュリー・ラーマクリシュナの教えの形容に、「広い」と「深い」を使ったのだと思いますか？

・ある聖典、ある宗教、ある先生の教えは、「広いけれども深くない」。

・ある霊的な教え、話は、「深いけれども広くない」。

**・「広くて深い」シュリー・ラーマクリシュナの教えは、特別な特徴**だからです。

「深いけれども広くない」教えとは、たとえば？

（参加者）イスラム教？　キリスト教？

そうです。なぜ？

イスラム教の考えでは、「コーランだけ正しい。アッラー、モハンマドだけ正しい。アッラーとイスラム教の教えを実践しないと天国には行けません」。キリスト教（教会）も同様です。その教えはもちろん深いけれども、広くない。普遍的ではない。ヒンドゥ教の中にも、クリシュナだけ正しい、あるいはマザー・カーリーだけ正しいとする宗派があります。マザー・カーリーの信者にならないと天国には行けない。クリシュナの信者にならないと地獄に行きます、と言っている。

──インドでは“解脱”を“Crossing the ocean of the worldliness.世俗的な海を渡る”と表現します。「世俗的な海を渡ったら解脱できる」という意味です。ヴィシュヌ派の信者はマザー・カーリーの信者に言います、「クリシュナはboatman船頭（＊クリシュナが船頭に変装した逸話がある。クリシュナはヴィシュヌ神の化身のひとつ）です。もしあなたが世俗の海を渡りたいなら、クリシュナを信じて礼拝してください」と。マザー・カーリーの信者は言い返します、「あなたの言うことは正しいです。しかしわれらのマザー・カーリーは女王ですから、みずから船頭などという低い労働者の仕事はしません。だからマザー・カーリーは船頭としてクリシュナを雇いました」（笑い）どなたが高位でどなたが低位か、そんな議論──狭いです。

シュリー・ラーマクリシュナの教えは、どうして「広い」と言えますか？

「**信仰の数だけ道がある**」──シュリー・ラーマクリシュナの結論はそれでした。シュリー・ラーマクリシュナの教えは、あなたが好きなものならなんでもいい。イエス、お釈迦様、モハンマド、クリシュナ、カーリー、なんでも構いません。それをとって、それに従ってください。**それらはすべて、最終的に同じ神様に連れていく**のですから。

広いです。それがシュリー・ラーマクリシュナの教えの特徴です。

「信仰の数だけ道がある」という結論にたどり着く学者もいます。しかし同じことを言っていてもインパクトは少ない。なぜならその人は悟っていませんから。あたまだけの結論ですから。**シュリー・ラーマクリシュナは、自分で実践して、悟って、その結論を出しています。だからインパクトが偉大**です。

次に、「広いけれども深くない」教えとは？

１９世紀インドには、ブラーフモー・サマージという宗教団体がありました。そのグループは学者の集まりのようでした。いろいろな聖典を勉強して、キリスト教から少し、ウパニシャッド（ヒンドゥ教）から少しとって、それらを合わせて自分たちの聖典をつくったのです。広いですが、深くはありません。

Vertical（ヴァーティカル・垂直）と、horizontal（ホライズンタル・水平）を考えてみてください。

ブラーフモー・サマージは、ホライズンタルですけれども、ヴァーティカルではない。

シュリー・ラーマクリシュナの教え、メッセージの特徴は何ですか？　**ヴァーティカルと**

**ホライズンタル両方あります**。

私は「深い」のに「海」を使いました。海はとても深いでしょう？

そして「広い」の比喩に「空」を使った。空を分けることはできないからです。すべての国から同じ空が見える。同じ空がすべての国の中に広がっている。海も広いけれども限度がある。しかし空は分けること出来ない。

シュリー・ラーマクリシュナの教えは、どうして「深い」と言えますか？

シュリー・ラーマクリシュナがサマーディに入っている様子は『福音』にたくさん描写があります。そしてサマーディは、時間と空間を超越しないと入れません。我々のこの一時的な世界、相対的な世界を超越した、絶対の状態がサマーディです。時間と空間を超越して、すなわち、目覚めの状態（jagratジャッグラー）、夢の状態（swapnaスワプナ）、深い睡眠の状態（sushuptiスシュプティ）を超越して、絶対の状態（turiyaトゥリヤ）に入る。それがサマーディ。それを考えると深いではないですか？　誰もなかなかそこまでいけない。ほとんどの人は、意識と潜在意識の中でだけ。

シュリー・ラーマクリシュナのサマーディとサマーディの話、『福音』の中にたくさんある。それはとても深い話ではないですか？

シュリー・ラーマクリシュナのメッセージは**「深い」と「広い」、両方特徴**です。深いだけではなく、広いだけではなく。ヴァーティカルとホライズンタル。それが特別です。

・📖（つづきを読む）

空のごとく広大で、大海のごとく深い、**信仰と合理性をあわせ持っている**。

**それが特徴**です。シュリー・ラーマクリシュナは、論理をいっぱい使って説明しました。ふつうは信仰だけ。シュリー・ラーマクリシュナの教えには**信仰と論理的議論、合わせて**あります。

宗教のイメージは信仰だけ、「信じなさい、信じなさい」そのイメージ。

ある神父が、聖書の宇宙創造について話していました。「神様は初めに月を創り、少し休んでから太陽を創った」。それを聞いていたある人が「それは科学的ではない」と反論しました、はじめに太陽がなければ、月は自分で光ることができないのではないかと。神父は怒りました。「そのように考えたら聖書はなくなります。聖書の言うことを信じてください」

ヴェーダーンタは、論理や議論を使って知識を深めるのが伝統です。

『バガヴァッド・ギーター』でもアルジュナは、「あなたの教えがわかりません」と何度もクリシュナに質問をしています。（👉４章４節ほか）聖典の教えがわからないとき、無条件には信じません、教えてくださいという態度です。

そのような論理的議論は『福音』の中にもたくさんあります。たとえば、

シュリー・ラーマクリシュナは、マザー・カーリーはこの宇宙の創造者だと言っていました。しかしブラーフモー・サマージのある信者が、ある日反対した。マザー・カーリーの像はこんなに小さいのに大宇宙など創造できるものか、と。シュリー・ラーマクリシュナの論理はとてもおもしろかった。

──私たちが見る太陽の大きさは、お皿くらいですね。でも太陽の本当のサイズは、地球よりずっと大きい。なぜ、そんなに大きい太陽がお皿ほどの大きさに見えるのでしょう？　「遠いですから小さく見えます」ね。太陽に近寄れば、大きく見えてきます。・・・ほら、あなた、マザー・カーリーから遠いところに住んでいるから小さく見えるのですよ。もっと霊的な実践をして、もっとマザー・カーリーの近くにいくと分ります。マザー・カーリーは大きいだけではなく、無限だということが。

　──また、真理をこのようにも説明しました。水がはってあるお皿を１０皿用意しました。それぞれの中に太陽が反射しています。いま、太陽の数は、１０個の反射した太陽と１個の本当の太陽ですね。お皿が２つ壊れると、８個の反射した太陽と１個の本当の太陽になります。７つ壊れると？

（参加者）１個の反射した太陽と１個の本当の太陽。

　全部壊れると？

（参加者）本当の太陽だけ。

　シュリー・ラーマクリシュナの答えは違いました。「『何があります』と言うことはできない」というものでした。反射の太陽があるからこそ、本当の太陽が分るというのです。反射がなければ何が本物かはわからないでしょう？と。

　我々の知識はみな、relative相対的知識です。たとえば飛行機。上空で、とても速いスピードで進んでいますが、窓から景色を見ない限り、乗客にその印象はありません。新幹線も同様。窓から動かない景色でも見ていれば、進んでいるのが実感できますが、それがなければわからない。つまり相対のもの（動かないもの）がないと、本当のこと（動いているのか、動いてないのか）がわかりません。

　真理も同じ。本当の真理は描写できません。絶対のレベルでは何も言えない。絶対に入ると何も言わない。サマーディに入ると話は出来ない。ただ相対的なレベルに降りてくれば、描写をすることはできる。サマーディから戻れば話はできる。

本当は、絶対のレベルは何か、それもわからない。我々が「絶対」と言っているのは、相対レベルにおいて、これが絶対・あれが相対、これが本当の太陽・あれが反射の太陽と区別しているのですから。我々がいるこの相対のレベルでは、反射した太陽がなければ、本当の太陽はわからないのです。絶対のレベルでは、本当の太陽はあるが、それは何か、何があるかの描写はできないのです。

シュリー・ラーマクリシュナは、ギリシュ・チャンドラ・ゴーシュとその議論をしました。ギリシュはとても知性の高い人でした。けれどもシュリー・ラーマクリシュナにそのように説明されて、何も言わなかった。ブラーフモー・サマージの信者も教育レベルはとても高い。ですがシュリー・ラーマクリシュナのとてもシンプルで分りやすい理論に反論はなかった。

とってもびっくりではないですか？　シュリー・ラーマクリシュナは寺院のただのお坊さん。学校ではほとんど勉強してない、大学にも行ってない。しかしこんなに論理的。

『福音』の中に両方ある。**真理もある論理もある。信仰もある論理もある**。

論理だけでは学者になります、論理だけではなく信仰もある。

**両方あるということ、それが『福音』の特徴**です。

わかりますか？　**『シュリー・ラーマクリシュナの福音』はそのように勉強すると、深くなります**。そうしないと、浅い勉強になります。

私も『福音』を読んでいます。自分で読んで、考えて、あ、それが特徴、あれが特徴と、自分のアイデアを話しています。誰かや何かから教わった話ではありません。

皆さんもそのようにできます。そのように、とても**集中して『福音』を読めば、自分の新しいアイデアができます**よ。**そうなると、インパクトは深い**。そのように勉強すると、**性格は変化**します。**無意識のうちに変化**します。浅い勉強では結果は出ない。**『ラーマクリシュナの福音』の勉強のやり方はそれ**です。

（参加者）おもしろいです。でもこのような話を聞いて、おもしろいよっていうのがわからないと、『福音』って堅い書物だとか、難しいから読まないと思う人もいるかもしれません。

（マハーラージ）うん、大体、自分のレベルで分ります。私が言うことは、もっと深い理解のために、そのやり方。もちろんシンプルに、おもしろい物語があります。それでもいいが、それではちょっと浅い。

（参加者）マハーラージみたいな読み方ができればもっといいですよね。

（マハーラージ）だから私は自分の考えをシェアしてます。

（『福音』勉強会第１０回、以上）